

平成 24 年 度

ふれあい地域懇談会報告書

〈 玉 縄 地 域 〉

| | | |
|---|-------|---|
| 1 | 日 時 | 平成24年7月27日（金） 午後2時～4時 |
| 2 | 場 所 | 玉縄行政センター 第4集会室 |
| 3 | 出 席 者 | 自治・町内会代表 29名 玉縄地区社会福祉協議会1名、鎌倉市老人クラブ連合会玉縄地区1名、 民生委員・児童委員協議会第9地区1名、玉縄女性の会1名、玉縄城 址まちづくり会議1名 合計34名 |
| 4 | 市側出席者 | 松尾市長、相川経営企画部長、嶋村防災安全部長、伊藤都市調整部長、 山田都市整備部長、植地玉縄支所長 |
| 5 | テ ー マ | 1 大船観音前岡本マンション建設中止中の敷地の件 2 フラワーセンターに関する課題 3 山崎跨線橋北交差点（フラワーセンター角）の整備改良 4 3小学校の耐震対策は、吊り下がり状の蛍光灯なども含めて充分 なのか 5 ロジュマン前交差点の通学路としての安全対策 6 その他 |

平成24年10月 経営企画部 秘書広報課

— 第2部 過去2年間の懸案事項の報告—

＜松尾市長＞

1点目、『県道阿久和鎌倉線中村バス停付近の狭い道が、県道に接続するところが危険なので、停止線の位置を変えるなど対応はできないか。』というご提案だが、この道路を拡幅整備するには用地取得が必要になるので、これには地域の方々のご理解が不可欠である。

また、県道の停止線の位置については、大船警察署に要請をしたが、今より手前の位置では、交差点から離れてしまうとのお答えをいただいている。

2点目、『県道阿久和線から通学路に入る箇所、7時半から8時半まで進入禁止になっているはずなのに看板がなくなって車が入って来る。』というご指摘だが、これも大船警察署に要請をしたところ、ここに設置してある規制標識は、太陽光発電による電光掲示板になっており、7時半から8時半までの進入禁止時間帯にだけ、文字が表示されるようになっているとのことであった。

3点目、『武田薬品研究所の建設に当たって、環境保全に係る協定書はどのようになっているか。』というご質問だが、この点については、その後地域の皆様方にも説明に入らせていただいている。協定書と覚書等を資料として添付したので、ご確認いただきたい。

4点目、『大船フラワーセンター苗ほ跡地の計画は、以前のプランから変わるのか。』ということであった。

汚染物質が検出されていない用地の一部、これはフラワーセンターよりロジューマン側になるが、この部分を取得して、関連手続きをしたうえで活用をするという方向で、今、神奈川県と協議をしているところである。今日の時点では明確にお示しができないが、協議が整い次第、地域の皆様方にもきちんと報告をさせていただく。

5点目、『山崎跨線橋北交差点の右折レーンについては、問題提起してから5年経っているがどうなっているのか。』というご指摘であるが、これについては大きな課題だと思っており、我々も大船警察署や県警本部等と協議を重ねてきたところである。

先日警察署から、平成24年4月27日から、藤沢方面からの信号時間の割合を長くしたという報告を受けており、根本的な解決に繋がるかどうかというところはあるが、こうした取り組みによる推移を見据え、今後の改良の必要性についてさらに議論を進めていきたい。

6点目、『コーナン大船モール前の渋滞緩和のため、誘導方法を考えてほしい。』という

ご要望であるが、コーナン入口の交通渋滞は、今後、信号現示の工夫など、交通管理者や道路管理者とも十分な協議調整を行っていくとともに、歩行者の誘導や、滞留スペースの確保など、ハード・ソフト両面からの検討をコーナンにも要請して、より良い形にしていきたいと思っている。

<ラシェール鎌倉岡本ハイライズ自治会 増村会長>

フラワーセンターの用地活用については、ほとんど進んでいないという感じを受ける。これは、ロジューマンさんとラシェールの二つの町内会と接している訳だが、長期化しているので、私共もちょっと心配な面がある。

汚染物質の漏れ具合について、このまま長期に渡ってそのままなのか、何か対策は立っているのか、そのあたり具体的な話を伺えればありがたい。

<松尾市長>

確かに、大変時間がかかってしまっていることは申し訳ないと思っている。汚染物質であるフッ素が検出されたことで、市が県から取得するに当たって様々な協議、調整を行う必要があったため、少し時間がかかってしまっている。

ただ、現状では、そのあたりはほとんど解決できている段階に入っているので、あとは話を前向きに進めて行けると、私自身捉えているので、今後は目に見える形で、しっかりとお示ししていきたいと思っている。

そして、ここは今、神奈川県が土地の所有者であるが、現在は基準値内であるため、特段、飛散防止の対策はしてないとのことであり、本市としても、そうした危険性はないと認識をしている。

<ラシェール鎌倉岡本ハイライズ自治会 増村会長>

その点は大丈夫だという認識だから、特にその防止策というのは必要ないということか。

<松尾市長>

県の説明では、このフッ素は、工場等ではなく自然由来のものであるという説明もいただいている。そういうことから、健康被害というものはないと考えている。

<ラシェール鎌倉岡本ハイライズ自治会 岡野氏>

武田薬品の問題だが、「選択」という月刊誌の7月号で、武田薬品が今の研究施設をまた貸しするという記事が取り上げられており、それによれば、武田薬品が全く関与しないところで、研究施設がどこに貸されて何をやるのか、我々にも全くわからないような状況になるということであった。

先日、私も武田薬品に報告をしたが、非常に無責任である。丸ごと研究施設を貸してしまうので、中で何が行われているかわからないという施設、この記事が事実なのかどうかを含めて、市はこのことを認識されているか。

＜松尾市長＞

手持ちの資料では、詳細の確認ができないので、持ち帰らせていただき、担当にも確認をしたうえで現状を把握し、あらためて連絡をさせていただきたい。

《後日対応 — 環境保全課》

平成23年11月19日に開催された、「第2回武田薬品工業湘南研究所の環境保全に関する連絡会」において、武田薬品から、下記のとおり報告がなされた。

- ・ 研究所の一部を活用して、国内外の優秀な人材と創薬に関する共同研究を行う「共同ラボ」を行う。
- ・ 武田薬品の研究者と共同で研究をするため、環境安全対策については、国内法令・環境保全協定・研究所の規則等を遵守し、武田薬品が責任を持って指導・管理をしていく。
- ・ 共同研究の内容や相手等が決まり次第、事前に連絡会に情報を提供する。

平成24年8月29日に、武田薬品から、藤沢市環境保全課及び鎌倉市環境保全課、並びに上記連絡会のメンバーあてに、共同研究ラボの開始に関して、以下のとおり通知がなされた。

- ・ ブリティッシュコロンビア大学と武田薬品の研究者が、プロジェクトチームを結成して共同研究を行う。
- ・ プロジェクトの責任者は、武田薬品の研究者であり、平成24年8月から3年間を予定している。
- ・ 実験は、当研究所で通常行われている実験レベルであり、病原性の強い微生物類は用いない。
- ・ 武田薬品の研究者が責任を持って、招聘研究者に対して、日本の関連法規及び環境保全協定の遵守等について教育・訓練を行う。

上記のことから、また、この件については、同日付けで報道機関にも発表されていることから、市としては、当該研究が、月刊誌「選択」の記事及びご心配されているような「武田薬品が関与しない所で、どこに貸されて何をやるのか、全く分からない状況」ではないと判断している。

また、法令・協定書についても、同社が責任を持って遵守していくとのことであることから、同社が問題となるような行為をしているとは認識しておらず、したがって、特段の指導や要請等を行う必要性もないと考えている。

平成24年9月28日に、ラシェール鎌倉岡本ハイライズ自治会の増村会長に、上記の旨を書面で回答した。

— 第3部 今年度のテーマ—

<玉縄自治町内会連合会 石井理事>

自治町内会の会長の皆様からお出しいただいた課題を、5つにまとめて市に出している
ので、それを中心に話を進めて行きたい。

テーマ1：『大船観音前岡本マンション建設中止中の敷地の件』

<松尾市長>

毎回議題となっているこの件についても、なかなか進展してこないことが大変申し訳な
いと思っている。

まず、本市の姿勢だが、①階段市道053-101号線については、一日も早い階段の復旧を目
指すこと。②当該地での新たな開発については、市有地の編入及び払い下げ等には協力し
ないこと。③公共的土地利用については、建築物等を目的とした利用は考えないこと。④
当該土地の買収については、積極的に考えていかないこと。という4つの考え方を堅持し
て進めている。

そういう中で、昨年11月に土地の所有者から、まずは安全対策について取り組んでい
きたいという意思表示があった。これでかなり進展するだろうという期待があり、その後
土地所有者が、今年1月から測量を実施して、安全対策の検討を行ってきたという経過
があった。

ところが、去る7月11日に担当職員が面談をした際に、土地所有者から「現地の安全対
策については、鎌倉市または民間への売却を前提に、それに見合う形で行いたい」という
提案があった。これは、我々が昨年11月に受けた「安全対策を優先して行いたい」という
姿勢とは、だいぶ変化をしたと受け止めざるを得ないことである。市としては、この3月
の予算議会で、こうした土地所有者の姿勢に合わせた予算計上をしてきているので、私自
身あらためて土地所有者と早急に会って、経過説明を確認したいと考えている。

そういう訳で、この階段市道の復旧については、この3月議会で予算が認められたが、
現地調査についても事業者の意向をしっかりと確認しながら、市としてもできるだけ早い
時期に実現できるよう取り組んでいきたいと考えている。

<岡本町内会 小島会長>

先日の7月20日に、市の道路課から連絡があって、先程話があった測量及び擁壁点検地
質調査というのを実施するという話だった。これは当然のことながら、あの階段で市がや
るのだと思うが、この調査の結果、当然予算申請をして、おそらく来季着工ということな
ると思うが、実際は始める時期や工期とか色々なことがあるので、おそらく来季も完成を
見ないかもしれないということだろう。あれだけのことで、最初に議会で可決されてから、
3年ないし4年かかるというのは、ちょっと長いのではないかと。

平時見ていると、バスターミナルが出来たことで、栄光学園の生徒を始め非常に多くの方があそこを通るので、雨や地震があると不安である。だから、一日も早く安心して通れるようにしてもらいたい。

<松尾市長>

事実経過だけ述べさせていただくと、昨年2月に一度、この階段の予算を議会に示した時は否決をされた。そして、今年3月の24年度予算で、この事業者の意向もあって測量費用というのを計上して可決された。それに基づいて今、この測量を3か月の間をもって進めているということである。

今後はこの測量を経て、また予算要求をして、議会へ提出するという手順になっていくが、それもあるべくスピード感を持って、できる限り早くできるようにと考えていたところで、土地所有者の意向が少し変化をしてきているような状況になったため、そのあたりしっかりと確認をしながら進めていきたいと思っている。

<玉縄自治町内会連合会 石井理事>

このテーマはポイントが2つある。1つは、あの土地全体をこれからどうするのかということ、もう1つは、階段市道の復旧をいつやるのかということだと思う。

今の市長の話だと、所有者は市なり民間なりに売却したいという気持ちになっている訳である。市としては、あの土地を購入して何か公共的な施設を造る考えがあるのか。

<松尾市長>

市が積極的にあの土地を購入して、何か施設を造るということは、今の段階では考えていない。これで市があんまり土地を買ってしまうと、もう市の問題だけになるのだが、それは逆に言うと、全部皆さんの税金で尻拭いをするという結果になるので、公金の支出については、私としては慎重に考えていきたいと思っている。

そういう意味で、やはり事業者の責務だろうとは思っているが、事業者が、もうあの土地を持ちきれないというような意向もあり、それが今後どういう形になるかはわからないが、市の財政負担が伴わないような形になるならば、そうしたことも前向きに考えていきたいと、個人的には考えている。

<玉縄自治町内会連合会 石井理事>

購入という言葉があったが、方法論としては、長期の定期借地権みたいなことも多分あると思う。そういったことも頭に入れて、これから市での活用を考えることも選択肢に入れているのかどうか、そのあたりはいかがか。

<松尾市長>

そういったことも、会長さんからのご提案なので受け止めさせていただきたい。

昨年もそうしたご提案があったと認識しており、それも検討をしてきたが、やはり今で

も、安全対策はしっかりと事業者の責務で行っていただくのが筋だと考えているので、そうした姿勢で今のところは臨みたい。

＜岡本町内会 高橋氏＞

市の言っていることはわかるが、やはりあのままだと、台風や大雨が来た時に階段が崩れるということが想定されると思う。私達も5年も10年も待っているし、あのままでは荒れ放題になっているので、他市の方などが来たときに「ここはなんだ」と思われる。まして駅のすぐそばで大事な所なので、よく考えていかなければいけないのではないかと。

確かに議会等もいろいろあるが、やはり安全が一番大事なことなので、それを第一に考えていかないといけない。あまりに何度も何度も繰り返したことなので、なるべく早くできるように、進捗状況もどんどん皆さん方にお示しして、こうなっていますよということをもっと言っていただきたい。

＜松尾市長＞

決してあのままでいいとは思っていないし、安全性についても、台風や大雨の時には常に担当職員も気にして現場を見るように努めている。だから我々としても、できる限り解決をしたいという思いである。先程申し上げたとおり、近々に土地所有者と私自身お会いして話をしてくるが、その場でも、早期の解決に向けた要請をしっかりとしてくるつもりである。

《後日対応 — 都市調整課》

平成24年8月3日に、市長が土地所有者と面談し、できる限り早期の解決に向けて、今後、互いに考えを出し合いながら整理していきたいとの考えを伝えた。

テーマ2：『フラワーセンターに関する課題』

＜玉縄自治町内会連合会 石井理事＞

フラワーセンターに関する課題は2点あり、1つは、今空き地になっている約6,000㎡の苗ほの活用課題についてであるが、これは後ほど話をさせていただくこととし、まずはもう1つの課題である、フラワーセンターの駐車場の増設を兼ねて、震災の場合に備えた多目的ビルを建設し、周辺地域住民や観光客の帰宅困難者のための、備蓄と避難場所として活用してはいかがか、という提案についてお話しをいただく。

＜松尾市長＞

こうしたご提案は、まさに地域での防災や安全対策を考える中で出された提案であると思っている。ここは神奈川県土地なので、県とそうした協議をすることになるが、県のほうも帰宅困難者対策として、現在ある県有施設を活用していこうという方針であるため、

このご提案も、そうしたことに繋がってくると捉えている。

そういう中で、今後は市の施設も含めた災害時における安全確保ということで、検討を進めていきたいと思っている。

＜山王町内会 吉田会長＞

フラワーセンターは今年50周年ということで、この玉縄地区では住民との接点として非常に重要になっているし、また、地域の住民だけではなくて、近隣からも相当な人が今訪れている。ただ、現状を見ると駐車場が非常に狭くて、せっかく来ても車を止められない方が多い。また一方では、玉縄地区は丘陵地になっているため、特に防災関係では土地の確保が難しく、ほとんど無い。

それで、駐車場の問題と災害の問題が非常に重要になってくるので、玉縄地区の災害拠点として、防災機器のストックや帰宅困難者の対応といった複合的な目的を、できるだけ一挙に解決しようということで、玉縄地区の中心部にそういう施設を考えていただきたい。

県の土地であるということはわかっており、相当の費用もかかるだろうが、玉縄の地域住民の安全確保が、まちづくりのひとつの目玉となるのではないかと考えているので、是非とも県のほうに話を通していただくよう、市のご検討をお願いしたい。

＜松尾市長＞

災害対策については、例えば津波タワーを造ってはどうかという提案などいろいろあるが、その中でご提案いただいた駐車場の災害施設ということを見ると、ストレートに県に伝えてもおそらく、それは難しいという答えが返ってくるだろうと思う。

例えば、フラワーセンター自体を、災害時に有効的に活用するというような形で、県のほうの協力について話をし、そこを入口に、さらに備蓄倉庫などに話を広げていくといった工夫を考えていくと、少しは何とかできるかなと思うので、そういった形で県のほうとも、いただいた提案を実現できるように話し合っていきたい。

＜玉縄自治町内会連合会 石井理事＞

続いて、フラワーセンター苗ほ跡地の約6,000㎡について、先程少しお話をいただいたが、5年ほど前には6,000㎡全てを市が買い取るということであり、市が自治会に青図を示して説明をされたことがあった。それが、フッ素が出たために相当状況が変わってきている。

それと、もっと大きな問題はそれこそ財政問題だろうということで、一つお聞きしたいのだが、5年前に示された計画では、現在のロジュマンの横からラシェールに入っていく道はなくなり、ラシェールの駐車場から7m道路が新しくできるということであったが、これはまったく白紙化されているのか。

＜松尾市長＞

まだ新たな計画はお示しできない状況だが、今これから、県と協議をしていく中においては、5年前の図面とは少し変わってくるだろうと思っている。

市としては、子育て支援施設、保育園、障害児等のレスパイト施設の3つをセットにして建設するという中で、これについての変更はないという中で進めているが、5年前にお示しさせていただいている、大きく広場を活用できるような形での道路の付け替えという点については、今、協議を進めている中では、難しいと言わざるを得ない状況である。

<玉縄自治町内会連合会 石井理事>

そうすると、あの6,000㎡の地下部分に、いずれは50,000㎡の貯水槽を造るという計画があったが、これも全く白紙になっていると理解してよいのか。

<松尾市長>

今の段階ではまだ、5年前のものに代わる新たな計画ができていない訳ではないので、まだ白紙とは言い切れないが、今、様々なマンション建設の際にそうした雨水を貯めておく施設の設置をお願いして、水害が起こらないような取り組みというのでも進めているので、計画の見直しをしている中においては、そのあたりとも調整をしながら、また、財政負担等も含めて検討していく中で、より良い形というのを目指していきたい。

<玉縄自治町内会連合会 石井理事>

いずれにしても、6,000㎡の中のロジュマン側の土地を市が取得して、そこに子育て関係の施設を造るという話は、もう早々に結論が出ると受け止めてよいのか。

<松尾市長>

本当はこの「ふれあい地域懇談会」で、きちんとそのお話をしたいということもあって、県とも精力的に協議をしてきたところもあるが、なかなかその一つ一つの課題解決に対して、協議に時間がかかっている。そういう意味でも、できる限り早く、県との協議を次の段階へと進めていきたいと思っているので、また明確になり次第、皆様方にはきちんとご報告をさせていただきたい。

<ラシェール鎌倉岡本ハイライズ自治会 岡野氏>

ラシェールの前は中学校の敷地だが、土地所有者がその一部を売却して、そこに6階建てのマンションが建ったので、フラワーセンター側の窓が全部塞がれて見えなくなってしまった。これでは正直な話、マンションとしての価値も下がってしまう。

それと同じように、今度柏尾川のほうにもマンションが建つようなことになると、あそこはかなり広い土地なので、ロジュマンやラシェールと同じぐらいの高さのマンションが建って、川側の開けているほうまで全部見えなくなってしまうことになる。

確かに、新しく住む側の人にとっては環境がいいだろうが、従来から住んでいる者にとってはかなりのマイナスになるので、できれば市のほうで全て買い取っていただいて、施設とともに公園にしていいただければ、環境も変わらずにいいと思っている。

＜松尾市長＞

そうした新たなマンション建設による弊害というのは、ラシェールの問題というだけでなく、地域の人口問題や小学校区などにも影響が出てくる話なので、そういう意味では、大変慎重に考えていかなければならない問題だと思っているが、市としてはその部分、できる事とできない事がある。

ただ、従前からそうした要望をいただいているので、今のような懸念ができる限り起こらないように、我々としても県のほうには、民間に売却する場合はきちんと我々とも相談をする中でやっていただきたい、ということをお話しているし、今後も要望していきたい。

テーマ3：『山崎跨線橋北交差点の整備改良』

＜玉縄自治町内会連合会 石井理事＞

次は、先程もお話いただいたが、フラワーセンター北の交差点、具体的に言うとロジューマン側から川に沿って大船側に行って、山崎跨線橋に右折をする車の渋滞問題である。コーナン利用者の車などで、特に土日祭日はなかなか右に曲がれない。また、道路が狭く、ロジューマン側からは一応若干の右折レーンがあるが、大船側からは無い。

これについてはだいぶ前から、フラワーセンターの敷地を少し削ってもらって、それを市に提供してもらおうか買うかして、市道を拓げることによって、歩道や右折レーンを整備すれば、あそこの交通混雑が解消できるのではないかということで、いろいろ我々も市も協議を続けてきているが、この話はどの程度進んでいるのか。

＜松尾市長＞

用地買収や歩道の拡幅という点については、今、話がなかなか進んでいない状況である。これは大変大きな課題として捉えており、神奈川県や大船警察署とも、何とかいい方法はないかということで協議を重ねているが、抜本的な解決というところには至っていないのが現状である。

その中で警察のほうからは、先程申し上げたように信号の改善をしていただき、その状況を見ながら、また次の施策に移るといふ段階なので、時間がかかって申し訳ないが、交通渋滞をなるべく解消できるよう、しっかりと取り組みを進めていきたい。

＜玉縄自治町内会連合会 石井理事＞

ロジューマン側から来る道路は、バスが停まると右折レーンのほうに車が入れないといった問題もあるので、センターラインを川側にもう2、30cmぐらい寄せせることで、だいぶ解消できるのではないかと。警察の基準とかは確認していないのでわからないが、簡単かつ経費もそれほどかからずにできて、ある程度の効果が出るような気がするので、そういったことも一度調べていただければありがたい。

＜山田都市整備部部長＞

今のセンターラインの移動については、ちょうど反対側の道路が目違いになっているため、ただでさえずれている所に、また2、30cmずれてしまうという懸念はあるが、一応ご要望ということなので、大船警察署と相談してみたいと思う。

＜後日対応 — 道路課＞

平成24年8月17日に、大船警察署交通課に相談したところ、以下の点から対応は困難であるとの回答をいただいた。

- ・大船駅方面からの対向車線の関係から正面衝突の危険性が高まる。
- ・山崎跨線橋から左折する車の動線を確保するには、当該車線の停止線を藤沢側に後退せざるを得ないため、右折車線の延長がさらに短くなる。
- ・自転車通行の観点からも柏尾川側の現況幅員を確保したい。

平成24年8月22日に、玉縄自治町内会連合会石井理事に、上記の旨を報告した。

＜ラシェール鎌倉岡本ハイライズ自治会 増村会長＞

前にも出たと思うが、あそこはやはり右折の信号を付けることによって、右折の問題はある程度解決できるのではないかと思う。今まで話に出た一時的な対応策と併せて、別の信号をまず造るのはどうか。

＜玉縄自治町内会連合会 石井理事＞

あの信号は、この4月から川沿いの青信号が従来よりも少し長くなっているのですが、それによって2、3台ぐらいの効果は出ている。ただ、それ以上に交通量が増えているというところが問題である。フラワーセンター側だけでなく、駅側から来るほうも大変混雑する時間帯があり、4回も5回も信号待ちすることもあるので、駅側からの県道の幅も拡くするなど、抜本的な対策をしないと解決しない。

この問題は極めて技術的なことを含んでいるので、市も警察も相当苦勞して、苦心して対応してくれているが、なかなか前に進めない。信号も色々考えてやってくれているが、現実問題としては効果が出ていない。今後も色々とし恵を絞っていただき、県との協議を続けていただきたい。

テーマ4：『3小学校の耐震対策は、吊り下がり状の蛍光灯なども含めて充分なのか』

＜松尾市長＞

市内の小中学校は、建て替えを予定している大船中学校を除いて、校舎・体育館すべて耐震化は終わっているので、玉縄地域の関谷、植木、玉縄の3小学校についても、校舎・体育館については全て耐震対策が済んでいる。

吊り下がり状の蛍光灯については、それが危ないという指摘があるのは承知しているの

で、今後、各学校の現地確認をする中で、そうした細かい部分も改善できるように努めていきたい。

＜玉縄台自治会 葛西会長＞

関連で一つ、ちょっと気になったことがあったのでお聞きしたい。

6月の下旬だったと思うが、新聞紙上で、玉縄地区3小学校の放射線量が基準値を超えたという記事が出ていた。それに関連する何らかの市からの発表なり、あるいは、広報に出るかと思って気を付けて見ていたが、確か正式なものはないかと思っていた。私なりにホームページで確認して内容は調べたが、最近の情勢では、こういう問題は知らされていないことに一番大きな不安を市民は感じている。

私個人はこの数値を危険なものとは全く思わないし、逆に発表することによって不安を高めるといった側面もない訳ではないと思うが、知らせることで不安を取り除くという努力も必要だという気がする。どんな数値が出て、それに対してどんな対策を取ったのか、今後どういったことが課題になるのか、他の地域では出なかったのかといったことについて、もしわかればお聞かせいただきたい。

＜松尾市長＞

数値等については、今、手元に資料がないので、改めて後ほど報告をさせていただきたいが、一般的な対応として、防災安全部長からお話しをさせていただく。

＜嶋村防災安全部長＞

放射能については、学校だけでなく、幼稚園や保育園、市内の公園で計測をしており、それぞれ主管課のほうから発表をさせていただいている。広報は月に2回しか発行しないので、早くお知らせするためには、ホームページで出すことになる。教育委員会でも当然、学校関係者の方々には、数値が高い場合などは、通知をしていると聞いている。

もともと環境省が基準としているのは、地表1mで、毎時0.23マイクロシーベルトという基準であるが、鎌倉の場合はより厳しく、毎時0.19マイクロシーベルトを基準としている。ただ、地表近くで測ると、0.19を超えた学校がいくつかあったが、これは、ほとんど雨樋の下なので、土地を除去してビニール袋に入れて埋設し、周囲に子供達来ないように運営している。今は危険な状況という数値にはなっていないが、今後も継続して測定していく。

早く市民に知らせる方法としては、やはりホームページに掲載することが、今の市の情報の出し方であるという点をご理解いただきたい。

＜後日対応 — 学校施設課＞

平成24年6月7～8日に、市立小中学校全25校で、雨樋下の枡や側溝等655か所を測定したところ、以下の10校40か所で、市が土壌等の除去を行う基準としている、毎時0.19マイクロシーベルト以上の値を検出した。

| 学校名 | 検出箇所 | 最高値 |
|---------|------------|-------------------|
| 七里ガ浜小学校 | 雨樋下 2 か所 | 0.292マイクロシーベルト／毎時 |
| 深沢小学校 | 雨樋下の柵 1 か所 | 0.247 " |
| 富士塚小学校 | 側溝 2 か所 | 0.334 " |
| | 集水柵 2 か所 | 0.321 " |
| 小坂小学校 | 雨樋下の柵 3 か所 | 0.693 " |
| 植木小学校 | 雨樋下の柵 2 か所 | 0.215 " |
| 関谷小学校 | 雨樋下の柵 8 か所 | 0.367 " |
| 今泉小学校 | 雨樋下の柵12か所 | 0.555 " |
| 深沢中学校 | 雨樋下の柵 2 か所 | 0.281 " |
| | 雨水溜り 1 か所 | 0.214 " |
| 玉縄中学校 | 雨樋下の柵 4 か所 | 0.353 " |
| 岩瀬中学校 | 側溝 1 か所 | 0.240 " |

そのため、6月13～15日にかけて検出箇所の土壌等を除去し、除去した土壌等は各学校の敷地内に埋め立て、管理策やロープ等により立ち入り禁止措置を講じた。

しかし、小坂・植木・関谷の各小学校及び玉縄中学校の雨樋下の柵 9 か所は数値が下がらなかったため、雨樋を排水管に直結したうえで、柵をコンクリートで塞ぐ、あるいは交換するなどし、現在は全て基準値未満となっている。

今後も当面、測定作業を続けるので、より適切な測定頻度や方法について検討をしていく。

<玉縄台自治会 葛西会長>

学校に限らず、子どもを持つ親御さんからは、昼間よく遊んでいる公園は本当に大丈夫なのかという質問をよく受ける。だから我々も、大丈夫だということを伝えるための情報がほしい。そういう意味で、もう少し情報を得やすい状況になればいいと思う。

<松尾市長>

実際に、各公園も一度、市のほうで調査をして、結果を出しているが、常に調査をし続けているという訳ではないので、もし心配だという場合には、今まで市役所の防災安全部で行っていた放射能測定器の貸出を、今度、玉縄支所でも始めることになったので、そちらを利用してもらいたい。

<嶋村防災安全部長>

8月1日号「広報かまくら」でお知らせするが、8月1日から、市役所防災安全部の危機管理課に電話で予約していただければ、支所の窓口で、放射能測定器の貸出を受けることができるようになる。

テーマ5：『ロジュマン前交差点の通学路としての安全対策』

＜玉縄自治町内会連合会 石井理事＞

ロジュマン前の交差点ができて、交通、車の動きがスムーズになったが、横断歩道が怖いとか、信号が付いたのに信号を無視して車が突っ込んでくるといった、色々な不安や不満もでてきたので、何とかしてほしいということである。

また、グランマックス、四季の杜、レックスガーデン、岡本住宅などの小学生、特に低学年が多いので、スクールゾーンの標示ができないかということ警察に聞いたが、学校からの距離といった基準に合わないため、指定外だということであったので、このあたりについての市の意見を伺いたい。

＜松尾市長＞

通学路については、交通管理者、道路管理者、学校関係者保護者などで「鎌倉市スクールゾーン等交通安全対策協議会」というものを組織しており、その中で、スクールゾーンや通学路等の安全対策に取り組んでいる。

この場所については、平成24年度中に横断歩道前後のカラー化を予定しており、こういった取り組みでより安全を高めていければと思っている。また、歩車分離式信号への変更ということで要望もいただいているが、この信号機を管理しているのは大船警察署であるため、こうした要望については、市から警察のほうへ伝えていきたい。

最近特に、児童や生徒を巻き込んだ事故が、全国的にも大変話題になっているため、市としても十分注意をし、教育委員会とも連携しながら安全対策を取っていきたい。また、地域の皆様方にも、通学時間の立ち番等により、安全対策に協力いただいているところだが、そうした取り組みをより一層充実していただくことで、ソフト・ハードの両面から安全対策を図れればと思っている。

テーマ6：『その他』

課題①：『ごみの戸別収集と有料化についてのスケジュール及び具体的な進め方等』

＜玉縄自治町内会連合会 石井理事＞

それでは、一応用意されたテーマとしては最後になるが、ごみの戸別回収・有料化について、どのように取り組んでいて、どのようにしていくつもりなのかという点と、先日、後から追加でお願いした課題を3点ほど、市長からご説明いただきたい。

＜松尾市長＞

ごみの戸別収集と有料化については、昨年6月に策定した「ごみ処理基本計画」に実施

の予定を明記させていただき、進めさせていただいているところである。

実施のスケジュールとしては、今年の10月から、七里ガ浜、鎌倉山、山ノ内の各地区において、戸別収集のモデル事業を実施して収集体制の検証などを行い、その中で見つかった課題や問題点を解決したうえで、平成25年10月からの戸別収集の全市実施へと繋げていきたいと考えている。

そして、その翌年、平成26年4月から、家庭ごみの有料化を目指して進めているが、現在「鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会」の中で、その実施時期や戸別収集の品目、有料化の金額といった、具体的な内容についてご審議いただいている段階である。

<オーベル鎌倉植木自治会 成瀬氏>

我々は1枚の紙であっても、どっちのごみになるのかということで精一杯努力をしているつもりだが、今後、世界遺産が決定されて観光客が増えるようになると、その方々が置きっぱなしにしていくごみについては、これはもう我々では努力のしようがない。そのあたりはどのように処理される予定なのか。

<松尾市長>

まず、ちょっと話をさせていただくと、鎌倉のように元々知名度がある所では、世界遺産に登録されても、それほど急激に観光客が増加をすることはないと考えている。京都や奈良の例を見ても、確かに登録された時は、マスコミ報道等でかなり取り上げられるので、一時的に観光客が伸びることはあると思っはいるが、その後はある程度の期間をもって、今と変わらない状況になると予想を立てている。しかし、国外からの観光客は増えていくと予想されるので、そのあたりの対応は、しっかり取っていかねばならないと思っはいる。

そして、観光客に対する本市としての対策だが、基本的にはごみは、あくまでも自分たちの責任で持ち帰ってくださいという呼びかけをしており、それは今後も、よりいっそう観光客の方々に周知徹底していきたい。鎌倉の観光に来る方々のマナーとして、そのあたりを十分認識をしていただきたいと思いますと思っはいる。

<オーベル鎌倉植木自治会 成瀬会長>

回答としては今の市長のお話しで十分だが、私が申しあげたかったのは、要するにごみ問題一つとっても、ある一断面だけではなくトータルで考えていただきたいということである。そういう施策をこれからもお願いしたい。

課題②:『大船駅西口から湘南鎌倉総合病院へのシャトルバスは、いつから運用するのか』

<玉縄自治町内会連合会 石井理事>

湘南鎌倉総合病院の利用者のためのシャトルバスが、現在大船駅東口から出ているが、

西口からも運用される計画があり、新しい歩行者デッキのかぎ型に曲がる角の、エレベーターの所に乗り場もできているが、今日現在、まだ運用されていない。現状どうなっているのかご説明をいただきたい。

＜松尾市長＞

まだ色々と協議中であり、8月中に運行が開始される予定だと聞いている。

課題③：『大船駅西口のタクシー乗り場を、大和橋上のタクシー降り場に移設することはできないか』

＜玉縄自治町内会連合会 石井理事＞

今、タクシーは、大和橋の上が降車場になっており、乗車場へ行くには歩行者デッキをさらに歩いて行って、新しいエレベーターを降りていくことになっているので、以前からあるエレベーターで降りてくるとタクシー乗り場には行けない。これが、足の不自由な方にとっては大変しんどい。

足のご不自由な方々は、大和橋の上の降車場でタクシーに乗れるようにならないか。

＜松尾市長＞

今までは、売店の前から大和橋のほうへ渡れたが、警察から、あの道路を渡るのは危険であるという話があったことから、今では渡れないようになってしまっているのです。大和橋でタクシーに乗るとするのは、今の段階ではちょっと難しいと考えている。

この西口の整備をするに当たっては、警察や交通関係者、事業者等が協議を重ねる中で、また地元の皆様からのご要望等も受けながら形になったという経過があるので、なんとかご理解をいただきたいというのが、現在の考えである。

＜オーベル鎌倉植木自治会 成瀬氏＞

あそこの工事は、始めから現状に至るまでずっと見ているが、いかに利用者不在、人間不在の設計をしたかということを感じている。

実は私も、先日足の具合が悪くなってタクシーに乗ったが、乗り場まで歩いてとてもしんどい思いをした。それでタクシーの運転手にその話をしたところ、実は、実態のほうは改善されていて、見るからに足が悪い人がいた場合は、降車場のところで乗せてあげるといふことで、もう運転手同士で話がついているそうである。

西口の整備については、我々が最終的に今の形になると知ったのは、完成してからであり、それまでは知るすべがなかった。従来あった歩道が使えなくなったりしているのです。栄光学園や清泉女学院の生徒達からも、非常に使い勝手が悪いという話を聞く。やりようは色々あると思うが、もっと地域住民の知恵を集めて、要するに金がなければ知恵を出せということ、そこで真剣に考えてもよかったのではないかと思います。

でき上がった今でも、人間不在というかあまりにも不親切な点がある。例えば、渡内經由藤沢行きバスの乗り場は、歩道から一旦25cmぐらいの段差を降りて、それからまたバスに乗るために25cmぐらい昇らないといけない。元気な若者は飛び移れるが、雨で滑って転んだ人もいる。なぜそんな無駄なことをしなくてはいけないのか。なぜあんなにへこんだ歩道にしたのかということで、私は市役所へ行って絵で説明をして、ここの所のへこみを直してくれと言ったのだが、わかりましたと言いながら全然違う所が修理され、バス乗り場の所は未だに直っていない。

そういった、人間不在な設計があまりにも多すぎるので、工事が終わったら、少なくともその設計や管理監督をした人間には、しばらくの間その現場を見て、本当にちゃんと使われているのかどうか見直しをするぐらいの、人間性のある対応を是非とも期待したい。

<松尾市長>

細かい配慮がされていないという点は、大変申し訳ないと思う。改善できる部分については、早急に改善できるよう取り組んで行きたいと思うので、具体的な箇所等を、後ほど教えていただきたい。

先程も言ったように、この整備に当たっては、住民の方々とも色々と協議を重ねてきたと認識はしているが、それでもやはりまだまだ、皆さんからいい情報が聞き取れていなかったことから、できてみて初めて混乱や不満が感じられたという話は、私のところにもたくさんいただいている。

行政としては十分慎重に進めてきたという経過があるが、その中でもこういった声があったという点については十分反省し、今後こうした取り組みをするに当たっては、より一層市民の方々のご意見を吸上げられるような仕組みを充実させていきたい。

《後日対応 — 再開発課》

渡内經由藤沢行きバス乗り場の歩道のへこみについては、バスが転回できるように設けているものであるが、本来の設計上は、当該バスはこのへこみの部分ではなく、その手前で乗り降りすることになっているので、ご指摘のケースはバスの運転手が止める位置を間違えているといったことが考えられる。

そのため、平成24年8月30日に神奈川中央バスに対して、正しい停車位置にバスを止めるよう徹底していただきたいということを申し入れた。

なお、違う場所が修理されたという部分については、別件で対応したものが、たまたま時期が重なったものである。

平成24年9月26日に、オーベル鎌倉植木自治会の松尾会長に、上記の旨を報告した。

<玉縄自治町内会連合会 石井理事>

私からも、一言お話をさせていただくが、西口の整備に当たっては、平成13年に当時の連合会長が、市民を入れた形で協議会を作ってこの問題に関わっていこうということで、玉

縄の住民が中心となって4年間色々と携わってきた。

その結果としてあれができた訳だが、その間市は、2度ばかり住民に対する説明会を行っている。これは連合会、あるいは市から、全自治町内会にもお知らせを出してやっている。これは最低限必要なことは連合会も市もやっている。この説明会は玉縄の青少年会館でやったのだが、残念ながら2度の説明会に来られた方は非常に少なく、ほとんどが近所の方だけであった。

したがって、計画の策定までには、市民が4年間かけて相当な時間とエネルギーを費やして来たとし、また、色々な住民としての意見も出して、それもかなり受け入れていただいで現在に至っている。ただ、実際には不満と言うかマイナス面が出ているのだから、これはやはり、これから市としてもきちんとそういう声を受け止めていただき、改善するところは改善をしていただくということが必要だと思っている。

課題④：『JRの新駅の構想について』

<松尾市長>

では最後に、JRの新駅について端的に説明させていただく。神奈川県と藤沢市、そして鎌倉市で構成する「湘南地区整備連絡協議会」というものがあるが、今、ここに参加をして、この新駅設置に伴う影響などについて調査、検討を進めている。

その中では、新駅設置というのが、地域のまちづくりについて一定の効果があるという報告が出ている段階なので、この効果等を踏まえたうえで、新駅設置に対する方針については、権利者、それから市民の皆さん、議会等で相談や協議をしながら、今後の方向性を見極めていくという段階である。

ただ、まだタイムスケジュールというのは、お示しできるような段階ではない。